



東京女子医科大学病院

医療連携ニュース

2014年 新春号



副院長
川野 良子
看護部門担当
(看護部長)

ごあいさつ

8月より学校法人東京女子医科大学統括看護部長に就任いたしまして、現在は大学病院で看護部長、看護部門担当副院長、看護職キャリア開発支援センター長を兼務しております。

看護部門は大学病院内では最大の職員数を有する組織です。現在1408名の看護職員が在籍しており、毎年、180名の新人助産師・看護師を採用し、育成しております。本学で採用する看護職員は、南は沖縄、北は北海道からと日本全国から応募があり、看護職としてキャリアアップすることを真剣に考えているモチベーションの高さが特徴です。

また、近年では、専門看護師や認定看護師という高い専門能力を有する看護職員を、診療科のみならず、社会支援部、医療安全対策室、感染対策室、移植支援室、臨床研究支援センター、クリニカルパス室というように病院に於いてチーム医療と連携を推進する中央部門にも配置しており、役割や活動範囲は年々拡大しています。

また、看護部職員は数だけでなく病院各部門に於いて、患者さんにとってより質の高い医療連携を推進する調整役としてのキーパーソンだと自負しております。巨大組織の強みを活かして、多くの患者さんに質の高いチーム医療が提供できるようリーダーシップを発揮していきたいと思っております。今後とも、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

看護部の紹介



エキスパートナース・認定看護師・専門看護師



パワフルな男性看護師

医療は高度化、機械化が著しく発展しても、看護だけは看護師の心と手に勝るケアはありません。看護部では、この考えを念頭に置いて心のこもった手厚いベッドサイドケアを提供しています。外来受診から入院、そして退院後の在宅において患者さんの生活を基盤にした医療が安全にそして、安心につながることを常に大切にしています。

そのために、看護部では、専門性の高い看護実践者を積極的に育成、配置をしています。日本看護協会による資格認定制度である「専門看護師」5分野14名、「認定看護師」16分野32名が活躍しています。更に、「エキスパートナース制度」は認定看護師に先駆けて誕生した本学独自の資格制度で、看護部長直属の立場で、組織横断的な活動を実践しています。また、よりよい看護を支えている取り組みとして、全職場から選出されたスタッフがメンバーとして機能している褥瘡対策、感染対策、マナー・サービス、食・栄養の4つリンクナース活動があります。本学は、女性の医療者を育成することを使命として発展してまいりましたが、男性看護師も増加しています。このような男性看護職のキャリアアップや特性を活かすためにメールナース会を設立して男女共同参画の視点でも前向きに取り組んでおります。



■ 褥瘡ケアチーム

菊池 雄二
(形成外科)



褥瘡ケアチームは平成14年9月1日に発足し、院内の褥瘡リスク患者を把握、褥瘡発生を予防し、持ち込みを含めて褥瘡患者の状態の把握及び治療の指導等、チームとして活動しています。院長、副院長の指導のもと、形成外科医師2名、皮膚科医師2名、看護部2名、薬剤部3名、社会支援部2名、リハビリテーション部、栄養課、業務管理課の方々より構成され、月1回の褥瘡対策室会議において問題点をピックアップし、週1回の褥瘡回診で患者状態を把握し、褥瘡リンクナース・初期研修医に対する教育を通じて褥瘡に対する病院全体での知識レベルの向上を図っております。褥瘡は重症化すると入院期間が長期化し、QOLの低下も生じます。今後とも、皆様のご協力を頂き、当院の褥瘡対策・治療の向上を図って行くよう努力して行く所存ですので、御協力賜りますようよろしく御願い申し上げます。

■ 緩和ケアチーム

兼村 俊範
(化学療法・緩和ケア科)



私たちは、地域がん診療連携拠点病院として、診断時からの緩和ケアの提供体制の強化に向けて取り組んでおります。

チームは、緩和ケア暫定指導医、ペインクリニック医師、緩和ケア薬物療法認定薬剤師、がんに関する専門・認定看護師、臨床心理士などで構成されたコンサルテーション型チームとして活動しています。各診療科の「厚生労働省委託事業の緩和ケア研修」を受講した医師(約100人)や看護師と連携を図り、病状の変化や患者さん・ご家族のニーズに合わせた緩和ケアの提供を大切にしています。また、退院後の療養も視野に入れ、当院社会支援部と連携し、患者さんにご家族にとって安全で安心な療養となるよう地域との連携に力を入れているところです。

教育においては、2か月に1回実践緩和ケアセミナーを開催し、がん診療に携わる医療者の基本的緩和ケアの実践力向上に努めています。

■ 栄養サポートチーム(NST)

山田 卓司
(消化器外科)



私たちNSTは2007年7月に現在の消化器病棟から発足し、その後各病棟で順次活動を拡大して2008年に全科型NSTとなりました。当院の入院患者は約1300人と多いため、病棟を5つのブロックにわけ1名のチェアマンと5名のディレクターのもと活動を行っています。スタッフは医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士、医事課、業務管理課など多職種にわたります。活動内容は各ブロックで異なりますが、概ね週1回の会議で介入症例の検討、コンサルテーション、ラウンドを行っています。勉強会は定期的に毎月1回行っており職種を問わず毎回多くの方に参加いただいています。このような活動の結果、当院は日本静脈経腸栄養学会、日本病態栄養学会よりNST稼働施設の認定を受けております。栄養の持つ大きな力を信じて、今後は他の専門医療チームとも連携し患者さんの全人的なサポートを目指していきたいと考えています。



呼吸ケアサポートチーム

田窪 敏夫
(呼吸器内科)



呼吸ケアサポートチームは、一般病棟で人工呼吸器を装着している患者の全体的なケアのサポートを目的として2010年につくられました。チームの構成は、集中治療医(麻酔科医)、呼吸器内科医、口腔外科医、看護師、臨床工学技士、理学療法士、管理栄養士などで多領域に亘ります。週1回のラウンドを2つのグループに分かれて実施しています。2012年の実績はラウンド51回、のべ患者数455名でした。内容は、①離脱に向けた治療計画、②呼吸ケアの相談・指導、③呼吸理学療法・臨床訓練、④機器点検、⑤環境整備、⑦呼吸ケア指導、⑧栄養管理のサポートなどです。ラウンドの後、2つのグループ間で話し合い、情報交換をおこなっています。また、ラウンドの他に

1. 教育(定期的な看護教育、病棟支援として研修会を随時開催)
 2. 環境整備(一般病棟における人工呼吸器の設置環境の検証)
 3. 連携(相談に応じ各種専門職種メンバーが対応、医療安全対策室とも連携。例、トラブルの多かった気管・気管切開チューブの管理について注意喚起)
- 以上の活動を通じて、人工呼吸器管理に不慣れな一般病棟で標準的な呼吸ケアが安全に継続でき、患者の早期社会復帰支援につながるようサポートをおこなっています。

口腔ケアチーム

熊坂 士
(歯科口腔外科)



口腔ケアチームは歯科口腔外科の歯科医師と歯科衛生士から構成されています。主に入院患者さんの口腔ケアを対象としていますが、本院は1400床もあり、全ての患者さんの口腔内を管理することは困難です。従って、普段口腔ケアを行う看護師さんのサポートをして、口腔環境の改善を図っています。

具体的には、口腔ケア外来で難渋している患者さんのコンサルトを受け、歯科口腔外科の外来でプロフェッショナルケアを行うなどしていますが、外来まで来られない患者さんに対しては、病棟に往診して介入することもあります。また、看護師さんのスキル向上のため、院内外の医療スタッフ向けに勉強会を行っています。定期的に口腔ケアニュースも発行し、最新の口腔ケアに関する情報を提供しております。本年は口腔ケアハンドマニュアルも発刊致しました。

現在は、平成24年度より周術期口腔機能管理が保険導入され、今までの口腔ケアにプラスして癌患者さんや手術患者さんの口腔管理も行っています。

今後は、他チームとの連携や地域との連携を密にし、より良いシステムの構築を検討しております。

リエゾンチーム

筒井 順子
(神経精神科臨床心理士)



リエゾンは、“つなぎ”を意味するフランス語です。私たちリエゾンチームは、身体疾患の治療で入院している患者さんに、精神科医療サービスをつないでいます。かつては精神科医単独による活動がメインでしたが、現在は精神科医、リエゾン看護師、臨床心理士などを中心に1つのチームとして協働で活動する多職種チームとなりました。チームとして活動することにより、精神疾患の治療だけでなく、病気や治療へのストレスなど患者さんが抱えている心理社会的問題に対して、多角的な治療やケアが行えるようになっていきます。

身体科の医師や看護師の依頼を受けて病棟に往診する形式がほとんどですが、病棟ではまず、依頼を出されたスタッフと情報を共有し、患者さんやその家族にとって最も適した精神科医療を提供するように努めています。

リエゾンチームの介入対象は入院患者のみですが、ニーズが広がっていることから、将来的には退院後、外来での活動も期待されています。



講演会・研究会のご案内

2014年糖尿病 Up Date 講演会

- テーマ：末梢と中枢の連関から考える摂食調節機構の新たな理解
- 講師：中里 雅光 先生
宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸器内分泌代謝学分野 教授
- 日時：平成 26 年 1 月 23 日 (木) 18:00 ~ 19:00
- 会場：東京女子医科大学病院 総合外来センター 5F「大会議室」

主催：武田薬品工業株式会社

お問い合わせ：東京女子医科大学 糖尿病センター 03-3353-8111 (代表) 内線 27110

第 42 回 東京女子医科大学 在宅医療研究会

<東京都同行研修事業>

- テーマ：女子医大の目指す在宅医療のカタチ
—在宅を見据えた病院内での薬剤調整—
- 日時：平成 26 年 2 月 27 日 (木) 19:00 ~ 21:00
- 会場：東京女子医科大学 臨床講堂 1
- 当番世話人：薬剤部 木村 利美

主催：女子医大医師会

共催：東京女子医科大学在宅医療研究会 東京女子医科大学がんセンター
がんプロフェSSIONAL養成基盤推進プラン

お問い合わせ：東京女子医科大学 社会支援部 03-3353-8111 (代表)

医療連携窓口のご案内

当院と地域の医療機関やかかりつけ医の先生方との連携の窓口として、紹介元の先生方からのお問い合わせや、電話やファクシミリによる外来診療やセカンドオピニオン外来の予約を行っております。FAXの専用申込用紙は当院ホームページ 社会支援部の「医療関係者の方へ」から専用申込用紙がダウンロードできます。是非ご活用ください。

*予約専用電話 03-5269-7160 <月~金 9:00~17:00、土 9:00~12:00>

*FAX診療予約 03-5269-7387 <月~金 9:00~17:00、土 9:00~12:00>

